

名 称	2019年度 第1回ほどがや市民活動センター評議会 議事録		
日 時	2020年1月9日(木) 10:00~12:00		
場 所	ほどがや市民活動センター(アワーズ) ミーティングスペース		
出席者	評議会委員	有元 典文 委員 (横浜国立大学 教育学部 教授) 小倉 敬子 委員 ((公財)かわさき市民活動センター 理事長) 近藤 博昭 委員 (横浜商工会議所西部支部 支部委員) 竹迫 和代 委員 (参画はぐくみ工房代表兼ファシリテーター) 畑尻 明 委員 (保土ヶ谷区連合町内会長連絡会 会長)	
	保土ヶ谷区役所	地域振興課 地域振興課長 大山 敏彦 " 生涯学習支援係長 飯島 拓 " 生涯学習支援係 深谷 修人 " 生涯学習支援係 岩間 千恵子 " 生涯学習支援係 和田 喜代美	
	協働運営会議	代表 清水 蓬山	
	管理運営業務 受託者	理事長 福島 伸枝 監事 佐藤 洋志 ほどがや市民活動センター センター長 吉弘 初枝 " 職員 北川 有紀 " 職員 穂積 邦明 " 職員 松野 久実子	
	特定非営利活動法人 横浜市民アクト		

議題	1 2020年度 ほどがや市民活動センター事業について 2 アドバイスシート記入 3 その他 意見交換
資料	1 2019年度 ほどがや市民活動センター 第1回評議会委員・関係者名簿 2 2019年度 ほどがや市民活動センター 事業報告(簡易版) 2020年度 ほどがや市民活動センター 事業計画案 3 第1回 ほどがや会議企画書案 4 ほどがや市民活動センター評議会会則 5 ほどがや市民活動センター協働運営会議会則・組織図

* 大山地域振興課長の挨拶に続き、評議会会則第8条に基づき、委員5名出席により、本評議会の成立が確認された。

* 2019年度第1回評議会議事録を、ほどがや市民活動センターホームページに掲載する旨を出席委員全員の了承を得た。

* 評議会会則第5条に基づき、満場一致で本評議会の議長に小倉委員を選出した。

議題1：2020年度 ほどがや市民活動センター事業について

吉弘センター長より、2019年度事業、2020年度事業計画案について説明を行った。第1回ほどがや会議企画案について、北川職員が計画内容の説明を行った。

【委員からの質問および意見と回答】

全般事項／地域デビュー講座について

(意見) 「地域デビュー講座」は評判が良かった。短時間であるが、自身も参加して、良いことをやっているという感じであった。噂として聞いていただきたいが、講座に参加して勉強した人は栄養満点であるが、参加出来なかった人との接触がなく、上下関係で見ているような目線の気がする、といった意見もあった。正解というのは難しいが、「地域を共有するという心を育てる」ことが大切であると思う。地域のことに関心があるという人は1割、関心をもつことがいやだという人が1割で、後の7～8割が無関心。そう思っつけき合えと言われている。だからこそ、動いている人が主体的に地域の宝や魅力を発信できるような姿勢が大切だと思う。アンケートを取る中で、この講座が終わったら何をする？、どうしたいの？そう思うことが大切。やめなければ良い。地域を愛そう、謳歌しようという気持ちをずっと持っていれば良い。それが、地域づくり、街づくりであると思う。

(意見) ひとつの講座を学習としてやるのが本当にここの仕事なのか？学習した人が、自立して、ガイドとしてやっていったり、新たな講座を企画して次へつなげていくことなど、それをサポートするのがアワーズの役割だと思う。このところ(地域デビュー講座が)盛況というのがちょっと引かかったので、一言申し上げた。

(意見) 基本は、地域によって違うということ。ウチではこういうことをやっているとか、いろいろな意見がある。それぞれの意見が参考になる。地域というものは、緩やかにつながっている。趣味関係で、自治会・町内会で、福祉関係で、色々な立場の方が、立場立場で緩やかにつながっている。その集約をし、大まかないろいろな中で、細かいことをやっているのがアワーズであると思う。感心している。

(意見) PRが上手である。チラシを配るとか、広報を重視すべき。せっかくやっても、知ってもらわないと意味がない。こういうことをやっていると、大いにPRしてください。広報は大事。出向いて行くことから始まると思う。アワーズの存在を知らせていただいることがアワーズの発展につながっているので、今後も是非続けてもらいたい。

第1回ほどがや会議企画案について

(意見) 「ファシリテーター見習いという施設職員への呼びかけ」は大変良いアイデアであると思う。「人は、教えることで一番学ぶ」という原則を活用していることは、素晴らしいことであると思う。

(意見) ほどがや会議は、色々な意味でチャレンジングな試みであると思う。はぐくみプロ

ジェクトの区民企画型講座のように人材を育成する目的でやっているものだと、ちょっと敷居が高くなり、それなりの意識を持っている人でないと来にくい。一方、みんなのひろばのように、敷居を低くしたテーマでやると、おしゃべり以上のものが残っていかない。一長一短あり、どのような人たちに来てもらうかなどを含めて、検証の仕組みをちゃんと決めておかないと、とりあえず今年やってみただけで終わるのはもったいない。仲間を作るというところにもっていく目的で、お互いに真剣にぶつかり合ったりすると、お互いに消耗したり、敷居を低くすると楽しくおしゃべりだけで終わってしまい、その後が難しい。どのように持っていったら良いのか、アワーズとしても悩んでいると思う。

(回答) 区役所と一緒に検討中。どうやってもっていくか、機能や役割をどう解釈して、どう進めていくかを検討する。幅を広げれば広げるほど大変で、狭まれば楽であるが、そういうものではなく、悩みながらやっている。4年前と状況は違ってきており、それらを踏まえながら今後どうするか、ひとつの足掛かりとして捉えている。見えてきた課題を一つでもクリアしていきたいというもある。人にかかわる仕事はいつになっても慣れないし、大変である。しっかりと目的、目標は掲げて進めていきたい。

(質問) 「ほどガヤ会議は、どうなるんだろう？」と関心がある。具体的にどのような進め方をするのか？

(回答) メインは、集まった方たちがこちやませになり、「保土ヶ谷で、こんなことが出来たらいいんじゃないか？」と意見、アイデアを出しあってもらうこと。出された意見、アイデアは、次年度に何らかの形で実現したい。前段としては、(初めての開催なので) 場が和むような交流ができるような場にもする。作業のアイデアは、みんなのひろば、デザインセミナー、サンタプロジェクトなど、この一年の事業を、こうやったら良いとか、できたら良いとかを出し合う。ゲストに、NPO 法人日本 NPO センターの吉田事務局長を迎えて、アイデアが出る中でどういう視点で、どう議論できたら良いかを話してもらう。

(意見) イメージ的に固い感じがある。すでに何かをしている人が協働でやるとか進んで行くような感じあり。もっと気楽にどんな団体の人でも参加できる、けれどもつながりたいという人はいっぱいいる。川崎市民活動センターの“ごえんカフェ”は、行政、企業、市民活動団体など、様々な人に集まってもらい、自分たち同士で勝手に交流してもらう。参加者は60～70名で、立ったままで2時間行う。途中でお題を作っておいて、抽選で当たった人に、自分たちの活動のアピールをしてもらう(ひとり2分)。人が足りないとか、こういうことを考えているのだけれどコラボできませんか？とか、行政には協働事業の時期に合わせて職員からアピールしてもらっている。

企業(保険会社、不動産会社等)が、市民活動とかかわりたいと思っている。CSRを強化したいということで、スペース(会議室)の無料開放とか、印刷をやらせてもらうとか。企業とか様々な業種の方に参加を呼び掛けるとか、出入り自由、当日参加あり、そういった感じのもの、そういったタイプの企画も検討されたら良いと思う。

(意見) 参加する人、参加しない人がいるが、しない人に無理に参加させるのはかなり難し

い。学校教育が昭和と大きく変わったのは、無理強いしないということだと思う。無理強いをして逃げて行かれるよりも、そこにいてもらうことを大事にしている。学校教育は社会の縮図であり、(社会の縮図が) うまく回るように、何十年もかけて考えた一番新しい知恵である。無理強いしないで、そこにいてくれることを評価する。いてくれるということは、かかわりを断つことでなく、かかわりの可能性を持っているということですから、そこにいて見てもらって、感じてもらうことが大事。それ以上のことを要求して、さあ参加しよう、一緒にやろういうと、逃げて行ってしまうタイプの子どもの何パーセントかはいる。学校教育が社会の縮図であるとするば、社会の中でも考えていったら、もう少し楽にみんなが繋がれるかなと思った。

交流促進事業サロンカフェについて

(質問) 「アクリルたわし」とは何でしょうか? 現物を見せていただきたい。

(回答) 現物にて説明。みんなでおしゃべりしながら作り、作品は地域貢献、社会貢献にもなる。洗剤をつけなくても洗える。

(意見) 蕎麦のせいろを洗う時に使用するものに似ている。表面が傷つかない。

(質問) 交流サロン: 「アクリルたわし」以外のものを取り入れる計画はないのか?

(回答) 「アクリルたわし」は、自立・独立していただく。別のものを考えている。設立間もないとか、まだ運営等慣れていないグループなど、新しい人たちの取り入れを考えていく。

全般事項(企画推進等)について

(質問) 生涯学習的な要素の事業はやらないのか?

(回答) 生涯学習的な事業は、必要なものであると思っている。学んで終わりではなく、次の仕掛けを作っていく。今日いただいたご意見、アドバイスを参考にして取り入れて組み立てていく。“これをやらなければいけない”ではなく、楽しく参加してこれならできると感じてくれるような事業を計画していきたい。はぐくみ塾もそうであるが、学ぶ、学びあっていくという視点は、社会教育と同じであると思うので大事にしていきたい。

(質問) 団体を運営する方策とか、何かこれから地域で企画してみたいとかの方策とか、いろんな方策があると思うが、企画をするというシミュレーションとかは今まで考えたことがあるか?

(回答) はぐくみ塾は、企画をして実際に実施するまでつなげていくという事業。この事業とは別に切り口を変えて行かないと、似たり寄つたりのものになってしまう。企画をしていくというのは、例えば、出会ってつながった人たちが、何かをやっているという時に、アワーズが関わるのが、いつでもできるというネットワークを良くしておかなければいけないとは思っている。窓口で相談を受けた時に、(アワーズと一緒にやるのではなく) アドバイスをしながらコーディネーターとして関わっていくことはある。形として後には残らないけれど、仕事、業務としてはやっていく。

(意見)「何かをやりたい」というところにアドバイスしていくのは、アワーズの仕事であるし、すごく大事なことであると思う。「どうやったら良いのかわからない」という方に、ご相談をいつでも受けますみたいところ。ただ、アワーズが主体になる必要はなく、いつでも使えますといった場所を提供するなりして良いと思う。

(回答)「こういうことをやりたい」というグループがいて、アワーズが寄り添い、相談をしながら、やっている例がいくつかある。最近では、テーマに関してみんなで集まって情報交換などをやりたいという方にも、場所はフリーで提供するから、都合の良い時間に利用してもらおうとあわせて、「どうしたらいいんだろう」ということに対応しながら活動してもらっている。ただ、「こうしたい」という希望に応え満足いただくことは、本当に難しいと感じている。

(意見)設立間もない団体、これから設立する団体はもとより、設立していない予備軍なども呼び入れるような形にしていったら、より良いと思う。

地域と学校の連携について

(質問) 地域と学校の連携のところが、何となく浮いているような感じがする。学校地域コーディネーターは、知識がある方々が入っているのだけれど、何となく、ふわっと浮いている感じがある。この人たちにとってどんなメリットがあるのか、もっとうまく生かせないかな?という感じがある。

(回答) 狙い、目的がはっきりと描き切れていないので、区の担当職員とも相談して、彼らにとってどういったものなのか、メリットあるものとしていきたい。学校と地域と活動団体や自治会、町内会とつながりのある方が多くいるので、地域でコーディネートしていく事業として認識しており、これが伝わるような書き方を工夫する。

(質問) コーディネーターは、どんな人がなっている?

(回答) 校長の推薦による。町内会の活動者や主任児童委員、PTA 役員など多彩。

(意見) 市民活動に詳しくない人もいると思う。コーディネーターは、情報をもっていることと、人脈を持つことが命である。これがないと成功しない。紹介するネタを持っていないければ何もアドバイスはできない。アワーズに顔を出してもらい、いろいろな講座、活動に参加してもらい、体感してもらった方が良い。情報提供するということ、「知る」ということのきっかけづくりをアワーズにお願いしたい。

(意見) 保土ヶ谷小学校で、2月3日(月)みらい運動会を開催する。3世代交流がうたい文句。楽しみにしている。学校との関係、つながりを作ってもらおうということもアワーズの役割。つながりの中核になるのがアワーズであると思っている。

区役所地域振興課から

(意見) 非常に貴重なお話をお伺いして、大変勉強になっている。先ほど、教育の世界でも、

「そこにいてもらう」ということが大切なんだと考え方が変わってきている、ということを知り、大変に参考になっている。区役所内で、自治会・町内会の加入促進ということについて議論していた中で、同じような話をしていた。最初から役員になっていただくといったハードルを高くしてしまうと、若い世代を含めてなかなか入ってもらえない。取り敢えずは、自治会・町内会の会員になっていただいて、そこで将来やっていただける可能性を見ていくといったような、長い目で見て育てていくという発想が必要であるのかなと感じている。個人的には、市民活動、地域活動をしている方は、尊敬のまなざしでみている。“やっている方”は、それだけでも素晴らしいと思う。その中での優劣は求めてはいけない。人と人と比べて、私の方がやっている、ということではない。目的としては、自分のためでなくて、地域のためにやっているという視点を忘れてはならない。地域のために貢献するといった方法はさまざま、人によって度合いは異なってくる。アワーズの役割としては、自ら事業主体となってやっていくというより、市民活動を如何に側面支援して、ファシリテーター的な役割で支援活動をしていくというのが重要であると思う。自分でやってしまうのは簡単で、人にできるように、させるよう仕向けていく仕掛けの仕方、或いは動機づけの仕方は、非常に難しいと思う。回答はすぐに出るという訳ではなので、アワーズとも頭を悩ませながら、ひとつひとつやっていきたい。本日の議論は、個人にとっても、地域振興課長にとっても大変参考になっている。ありがとうございました。

議題2：アドバイスシート記入

議題3：その他 意見交換

- ・第2回評議会日程調整を行い、3月25日（水）10時から開催することに決定した。